

グローバル社会における

理学療法士の活躍に資する事例紹介

公益社団法人 大阪府理学療法士会

職能局



# はじめに

大阪では訪日外国人や大阪で暮らす外国人の増加に伴い、普段の業務でも対象が外国人のケースも見受けることが多くなってきている。その為大阪府理学療法士会（以下 府士会）では、将来的にグローバル化する社会に対応できる理学療法士を育成する目的も含めて、2つの事業バリアフリー展と大阪国際車いすテニストーナメントサポート事業の中で国際交流の場を設けている。

バリアフリー展は、外国人来場者に対し、理学療法相談コーナーやセミナーでの介護技術講習を通じて、会員が外国人との交流経験を培う場としている。また、日本の理学療法士が外国人に求められていること、日本の介護技術の外国への啓発方法を考えるための事業として位置づけている。

大阪国際車いすテニストーナメントサポートは、障がい者スポーツサポートの理解に加えて、外国人選手特有のサポートについての経験を得ることで、今後国際的な障がい者スポーツサポートが行える会員の育成に努めている。

詳細な事業内容について以下に説明を記載する。

# バリアフリー展の参加に関する事業における 外国籍の来場者への対応

# 活動概要

## バリアフリー展とは

高齢者・障がい者の快適な生活を提案する総合福祉展として大阪府で開催される、国内最大級の福祉機器展示会。

## 大阪府理学療法士会（以下、府士会）として ブース出展とセミナーを開催

ブースではリハビリテーション相談の一環として介護技術相談・指導を行っている。



図1 バリアフリー展ブース会場の様子



図2 府士会ブース

## 相談事例

- ・ ベトナムのリハビリテーション免許は看護師が一定の講習を受けることで取得ができる。このための学校の開設に協力して欲しい（ベトナム）
- ・ 日本の理学療法士と共同で福祉用具の作成をしたいので理学療法士を紹介して欲しい（韓国、台湾）
- ・ 中国において介護技術講習会を認定制度にして講習会を開催させて欲しい（中国）

国際的な活動として、医療・福祉分野で働く外国籍の人々に対して日本の理学療法の啓発や知識・技術の伝達を行っている。

また、府士会員の国際経験を培う機会ともなっている。

# 活動開始の経緯

府民に対する理学療法の啓発方法を模索していたところ、府士会員を通じてバリアフリー展事務局よりセミナー開催の依頼を受けた。

2010年はセミナーのみを開催したが、予想を超える集客があったため翌年からはブース出展も行うこととなる。

2017年頃からは海外からの来場者も増えており、国際的な活動が本事業に含まれるようになった。



図3 府士会のセミナー会場の様子



# メンバー概要

## 活動開始時

府士会

社会局

局長                      理事  
広報部                    調査資料部  
会誌編集部                福利厚生部  
医療介護保険部

合計7名

経験年数（年）	人数（名）
～10	3
10～	1
20～	2
30～	1

うち1名は国際活動経験あり



## 現在

府士会

職能局

理事  
公益事業部

合計4名

経験年数（年）	人数（名）
～10	0
10～	1
20～	3
30～	0

# 活動開始時に必要と感じた情報

## 外国籍の来場者がいるということ

国際活動経験を有する会員をより多く配置するなどの事前準備ができたのではないか。

## 日本理学療法士協会との連携

海外への理学療法士の派遣となると府士会での対応が難しいため事前に日本理学療法士協会との連携を取り、相談先の情報共有などを行うことが望ましい。



図4 ブースで相談業務の様子



## 活動経過

コロナ感染症拡大前は海外や日本で働く外国籍の施設職員などの来場者が年々増加しており、多岐にわたる相談・依頼内容が持ち込まれるようになっていた。

### ブース内容・セミナー講師選定

ブースは公益事業として出展しているため、府民対象のリハビリテーション相談や理学療法の啓発としている。

### 事前説明会

運営スタッフに対してブース・セミナーの企画説明及び運営マニュアルの説明

4ヵ月前

2ヵ月前

1ヵ月前

スタッフ公募

# 活動実績

## 実績

2017年

2018年

2019年

来場者数

91,356名

80,410名

88,512名

海外からの来場者

1.1%  
アラブ首長国連邦、アメリカ、イタリア、オーストラリア、カナダ、韓国、シンガポール、タイ、台湾、中国、デンマーク、ベトナム、マレーシア

1.4%  
韓国、シンガポール、タイ、台湾、中国、フィリピン、マレーシア

1.8%  
イスラエル、オーストラリア、韓国、シンガポール、タイ、台湾、中国、ドイツ、ベトナム、フィリピン、マレーシア

ブース相談件数

125件（日本語の相談を含む）

175件（日本語の相談を含む）

141件（日本語の相談を含む）

セミナーテーマ

「移乗動作の介護方法～重症度の違いによる介護方法と福祉機器の選択～」

「目からのウロコの介護技術～安全・安楽な移動・移乗の介護方法～」

「介助者のお身体にも配慮した介護技術講習会」

セミナー参加者数

274名

254名

110名

# 活動実績

## 実績

2020年

2021年

2022年

公募スタッフ7名

公募スタッフ4名

来場者数

開催中止

11,406名

24,327名

海外からの来場者

なし

なし

ブース相談件数

24件（日本語の相談を含む）

100件（日本語の相談を含む）

セミナーテーマ

「介護者の身体への負担  
軽減も考慮した介護技術  
講習会」

「介護技術講習会～お互  
いが楽な介護を目指して  
～」

セミナー参加者数

32名

254名

# 都道府県士会会員のメリット・デメリット

## 本活動に参加することによる国際活動としてのメリット

- ・外国籍の人とのコミュニケーションを経験できる。
- ・今後国際活動に参加していくためのきっかけとなる。
- ・国際活動に必要な語学習得のためのモチベーションとなる

## その他のメリット

- ・普段の職場では経験できない相談業務を行うことができる。
- ・時間の制限を受けることなく対象者の相談に応じることができる。
- ・一般の来場者に介護技術の伝達をすることで知識の整理ができる。

## 本活動に参加することによるデメリット

- ・本業での休暇を取得する必要がある。

# 今後の方向性

本事業は、理学療法により府民の医療、福祉、介護及び健康保持に寄与する事業として継続していく予定である。

再び海外からの来場者が参加するようになった場合に、国際的な活動経験のある会員を優先的に配置することや、外国籍の来場者をターゲットにしたブース内容の充実なども今後の検討課題である。

より多くの会員が国際的な活動に興味を持ち、事業に参加してもらえるような展開をおこなっていききたい。

# 財源と財政状況

## 公益社団法人 大阪府理学療法士会 2022年度事業予算

事業名	公1 理学療法により府民の医療、福祉、介護及び健康保持に寄与する事業
事業項目	バリアフリー展の参加に関する事業
新担当部	公益事業部
新事業番号	107
会議費	44,600
賃借料	60,000
消耗品費	120,000
発送費	40,000
旅費交通費	50,000
印刷製本費	100,000
原稿料	0
講師料	0
講師交通費	2,000
支払手数料	3,000
広告宣伝費	0
雑費	40,000

交際費	0
保険料	0
通信運搬費	0
慶弔費	0
給料手当	0
会費	0
光熱水料費	0
福利厚生費	0
備品購入費	20,000
減価償却費	0
法定福利費	0
租税公課	0
支払分担金	0
積立金	0
予備費	0
合計	479,600

本事業は、府士会の公益事業として予算計上されており、府士会員のグローバル化に資する事業としての予算も含んでいる。



# 大阪国際車いすテニストーナメント (OSAKA OPEN) サポート事業

# 活動概要

## 大阪国際車いすテニストーナメント (OSAKA OPEN)

主催：大阪車いすテニス協会 国際テニス連盟 (ITF) 公認

会場：ITC鞆テニスセンター

期間：4日間

参加選手数：70～150名

カテゴリー：2010年～2011年 ITF 3 Series

2012年～現在 ITF Futures

海外参加選手：2010～2011年 10名強

2012年～現在 0～4名



# 活動概要

## 大阪府理学療法士会の関わり（2010年～）

大会期間中4日間、サポートブースを設置し、車いすテニス選手の試合前後でのケアを実施

### 『サポート内容』

徒手療法、物理療法、アイシング、熱中症への対応、テーピング、メディカルタイムアウト対応

英語が話せるスタッフや海外でのトレーナー経験があるスタッフを配置して、海外選手への対応  
(海外選手の利用は年1～3名、3～7件)

大会前に事前講習会を行い、競技理解やテーピング技術の習得、物理療法機器の使用を実施



# 活動開始の経緯

会員が勤務している身体障がい者センターに、車いすテニス大会運営に関係しているスタッフが患者として理学療法を受けられていた

2010年にOSAKA OPENがITF3に格上げ  
コンデショニングルームの設置義務発生

大阪車いすテニス協会会長から大阪府理学療法士会に依頼

当時の障害者保健福祉部にてサポート開始

## メンバー募集

府士会ニュースで公募  
興味がありそうな知り合いに声かけ

## 他県士会からのサポート

国際車いすテニス大会サポート事業の  
実績がある他県士会メンバーに  
事前講習会にて相談、指導をいただく

# メンバー概要

## 活動開始時

## 現在

### コアメンバー

障害者保健福祉部 7～8人  
(経験年数 8年～15年)

うち、国際的活動経験者 2名  
(国際大会帯同経験他)

公益事業部 12人  
(経験年数 5年～20年)

うち、国際的活動経験者 2名  
(パラリンピック帯同経験他)

### 協力メンバー

一般応募 延べ20人程度  
(経験年数 1年～15年)

一般応募 延べ40人程度  
(経験年数 1年～20年)

# 活動開始時に必要と感じた情報

## ・本活動に興味がある会員に関する情報

4日間のケアステーション運営のための十分な協力メンバーを集めるため。  
特に、英語を話せる理学療法士がどの程度いるのか、海外でのトレーナー経験がある理学療法士がどこに所属しているかなど

## ・車いすテニストーナメントサポートでの重要事項

必要なサポート内容、国際選手に対しての特有の準備物、コミュニケーションツール、車いすテニス競技の傷害の種類、テーピングスキル、など

(前述した他県士会の方に相談・指導をいただいた)



# 活動実績

3か月前



- 準備を開始
- 大会運営陣との打ち合わせ

2か月前



- 協力メンバー一般公募

1か月前



- 事前講習会の実施

当日  
サポート

## 海外選手対策

海外選手とのコミュニケーションツールの確立  
(英語での案内・説明ボード作成、携帯電話の翻訳ソフト)

英語での会話ができるスタッフを各日程になるべく配置



# 活動実績

	延べサポートスタッフ数	延べ利用者数	海外選手延べ利用者数 (件数)
2022年	27名	213名	0名 (0件)
2021・2020年	大会中止		
2019年	58名	190名	0名 (0件)
2018年	54名	110名	0名 (0件)
2017年	65名	135名	1名 (3件)
2016年	40名	134名	3名 (7件)
2015年	40名	110名	1名 (3件)

## サポート内容 (2022年)

徒手のケア144件、アイシング44件、テーピング25件、試合中のメディカルタイムアウト9件

# 県士会員のメリット・デメリット

## ＜本活動に参加することによるメリット＞

- 国際的なイベントに対して特別な資格を有しなくても参加できること
- 海外を含めたトレーナー活動に興味をもって活動の場を広げることができること
- 英語での会話（問診等）の経験
- 選手を通じて、海外で行われているフィジオセラピーについて聞くことができる
- 車いすテニス競技に触れる事ができる
- 大会運営について知ることができる

## ＜本活動に参加することによるデメリット＞

- 日常業務との兼務であり、時間的制約がある
- 経済的な収入を得ることはできない



# 今後の方向性

障がい者スポーツのサポートができる人材の育成を進めていく

海外選手の参加が増加したときには、英語が話せる理学療法士や海外でのトレーナー経験を有する理学療法士の確保が必要である

どの施設に海外選手対応が可能な理学療法士が在籍しているかを調査する必要がある

事前講習会での語学等の研修

本事業に関わる海外でも活躍する理学療法士の紹介による道筋の提示

# 財源と財政状況

本事業単独の予算ではなく、その他障がい者スポーツサポート事業と合同での予算にて実施している。

また、本事業に係る予算は2種類あり、一つは事前講習会に関する予算、もう一つは大会当日のサポートに関する予算である。国際化に対応するための予算も含まれる。

## (例) 2021年

事前講習会に関する予算：412,500円

講師料、消耗品費（テーピングや関連商品）が主

大会当日のサポートに関する予算：489,000円

賃借料（物理療法機器や簡易ベッドのレンタル等）及び

旅費交通費（サポートスタッフの交通費）が主

# おわりに

両事業共に新型コロナウイルス感染症の影響で外国人参加者が減少しているが、今後グローバル化が加速し、多くの外国人が訪日や生活されることが予測される。府士会では、より多くの会員がこれらの国際事業に興味を持ち、この2事業に参加してもらえるように展開していきたい。そのためには、介護技術講習会テキストの外国語バージョンの作成や障がい者スポーツサポートでの外国人選手への対応講習会などを開催していくことも検討していく必要があると考える。